

令和5年8月23日

令和5年度 印旛地区教育研究集会

国語科 「読む」分散会 白井市立大山口中学校 提案資料

(写真が見づらいため、写真は資料として添付しました)

研究主題

見方・考え方を育てる手立てのあり方 ～パフォーマンス課題を通して～

世界に紙の建築を

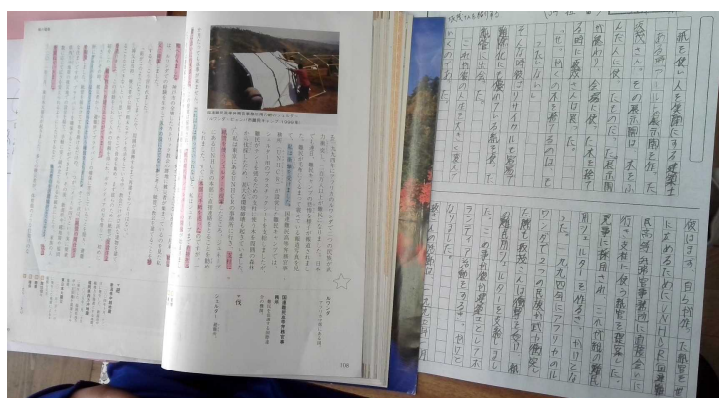
愛にあふれる建築家。

ある時、坂茂はアルヴァ・アアルトという建築家の展覧会の会場を作ることになった。会場には木を使ったのだが、作った後に廃棄するのはもったいない、そして何より予算がない。安くてもサイクルができる、そんな都合の良い素材はないものか・・・と悩んでいた時、坂茂は運命の出会いを果たす。事務所にあった紙管が目に入ったのだ。この時、坂茂に電流が走る。「これだ!」と思った。

坂茂はこの紙管を使い様々な物を建てた。ルワンダでは支柱に紙管を使うシエルトを。阪神淡路大震災の時、神戸市では仮設住宅と教会を建てた。その後も被災者の生活環境が良くなるように改良を重ねていった。東日本大震災の時、紙の間仕切りを持ち避難所を回った。しかし、なかなか理解してもらえず三十力所で断られ続けた。それでも諦めずに粘り強く交渉していった。するとようやく受け入れてもらえた。このことが報道され、受け入れ

が進み、約五十力所に提供できた。この時の課題は管理者の説得に時間がかかったことだった。そこで坂茂はいくつかの自治体と防災協定を結び、迅速に提供できるようにした。そのかいがあつて、熊本地震の時には一ヶ月半で三十七力所に設置できた。

坂茂は常々、建築家はどうかしたら社会に貢献できるのかと考えていた。その結果、世界各地を飛び回り、テント、教会、間仕切りなどを建てるようになった。建物が崩れ、怪我をしたり、亡くなったりすることに責任を感じ、生活環境の改善に力を尽くしている。使う人に居心地が良いと喜んでほしいという想いが坂茂の行動を支えているのだ。



絶対に諦めず人を助ける紙の建築家―坂茂―

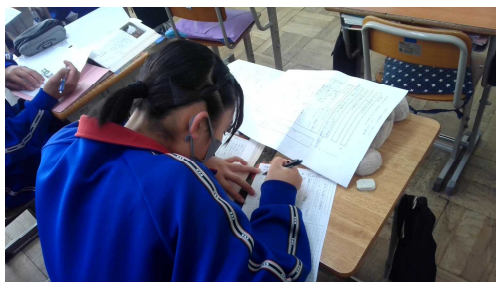
世界中の困っている国に紙管を使って、簡易的な住居や建物を作り、人を助けている建築家。

アルヴァ・アアルトという建築家の展覧会を開催した際、木を大量に使用し、廃棄するのがもったいないと感じた坂茂は安くて、リサイクル可能な代わりの材料を探し、自分の事務所にあった紙管に目をつけた。紙管はリサイクル可能で、軽く、安価で、組み立ても簡単にでき、強度も重ねることで充分になることに気づいた。

ルワンダで武力衝突があつた時にはすぐにUNHCRの本部へ手紙を送ったが返事が来ないため、直接ジュネーブまで行き、紙の難民用シエルトを開発した。

阪神大震災が起きた時には何かできることはないかと思い、被災地へ行き、資金を集めて仮設住宅を造り、そこで信頼を得て、ボランティアの力も借りて紙の教会を造ることができた。

東日本大震災が起きた時には、間仕切りを車に積み、ボランティアと共に避難所を回ったが、自治体の担当者にも提案しても理解されず最初に回った三十力所で断られ続けたが、絶対に諦めずに提案し続けた結果、約五十力所が受け入れ、提供することができた。自治体の防災の日にプレゼンテーションを行い、理解を得られるようにし、自治体と坂茂が携わるVAVが防災協定を結び、迅速に提供できるようにした。きつと坂茂はこれからもこの紙管を使い、世界中の人々を笑顔にし、助けていくのであろう。



白井市立大山口中学校

1 研究主題

見方・考え方を育てる手立てのあり方 ～パフォーマンス課題を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日的教育課題から

子どもたちの置かれている社会は、あふれる情報と多様な価値観の中で自分で何が正しいのかを判断し、力を合わせて未知の課題に向き合っていかなければならない状況にある。しかしながら、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）にも、

「こうした調査結果からは、学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自らの能力を引き出し、学習したことを活用して、生活や社会の中で出会う課題の解決に主体的に生かしていくという面から見た学力には、課題があることが分かる。」とあることから、「見方・考え方」を活用する力を培うような学習課題を投げかける必要がある。

(2) 学習指導要領から

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（平成28年12月21日中央教育審議会）には、「今回の改訂が目指すのは、第4章2.

(3)において述べたように、学習の内容と方法の両方を重視し、子供の学びの過程を質的に高めていくことである。「見方・考え方」を軸としながら、幅広い授業改善の工夫が展開されていくことを期待するものである。」と記されており、学びの過程の重要性が述べられている。

以上(1)(2)のことから、「見方・考え方」を、課題解決という学びの過程の中で働かせること、つまり学びのプロセスに着目することによって、生涯に渡って生きて働く「見方・考え方」を育み、学校教育目標の具現化に努めたいと考え、本主題を設定した。

(3) 学校教育目標等

○学校教育目標

生涯にわたり学び続けることができる生徒の育成

〈自分を愛する〉〈自分を高める〉〈真の文武両道〉

○めざす生徒像

・自ら進んで学習する生徒 ・豊かな心を持つ生徒

(4) 生徒の実態

本校は、各学年6クラス、特別支援学級3クラス、適応指導教室1クラスの22クラス、全校生徒648名の学校である。生徒は素直で、習い事や部活動など夢中になれるものをもっているのも、落ち着いた生活を送っている。一方で、様々な問題を抱え休みがちな生徒も多くいる。学習に対しては、参加はできるが受け身で、誰かが答えを出してくれるのを静かに待っている姿勢の生徒が目立つ。全国学力・学習状況調査では、表現を工夫する問題や記述式の問題に課題がある。また、定期テストでは、各クラス5名程度が40点を下回り、学習に対する意欲の差も大きい。よって、自分で課題を解決していくような授業や、分からない時には周囲の生徒に気軽に聞けるような協働的な学習形態を取り入れるようにしている。

仮説 1

*₁ パフォーマンス課題を設定すれば、「知識・技能」と「思考・判断・表現力等」が往還する課題解決の課程で新たな*₂「見方・考え方」に気付くであろう。

仮説 2

生徒の思考を促す協働的な学習の場面を設定すれば、「見方・考え方」が深まるであろう。

*₁ パフォーマンス課題とは・・・様々な知識やスキルを総合して使いこなす（活用する）ことを求めるような、複雑な課題。具体的には、論説文やレポート、展示物といった完成作品やスピーチやプレゼンテーション、実験の実施といった実演（狭義のパフォーマンス）を評価する課題。 〈西岡加名恵 2016〉

*₂ 見方・考え方とは・・・中学校学習指導要領（平成29年告示）③「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進」オには、「深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものであり、教科等の学習と社会をつなぐものであることから、児童生徒が学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにすることにこそ、教師の専門性が発揮されることが求められること。とある。

仮説 1 について

生徒が主体的に学習に取り組める授業を模索する中で、生徒が自分の考えを書いたり、考えをまとめて発表したりという学習のスタイルが有効であると感じ、取り組みを続けてきた。その課程で、生徒の完成した作品を評価した時に、「この部分をしっかりおさえておけばもっと良い評価になったのではないか」と感じる事が幾度もあり、改善しながら授業に取り組んだ。

例えば、「紙の建築」では、坂茂さんを新聞記事で紹介するというパフォーマンス課題を実施した。その際、具体例に込められた思いを読み取る視点が不足していると主張をつかみきれず、紹介文の質を下げると気づいた。他の単元でも同様の気づきがあり、「見方・考え方」をある程度示し、さらに、その「見方・考え方」を働かせる課題設定をすれば、課題解決の過程で「知識・技能」と「思考・判断・表現力等」が往還して、自分自身の「見方・考え方」が身に付くと考えた。

仮説 2 について

学級には、課題を与えた瞬間に、何をして良いかわからず思考が停止する生徒から、完成した形をイメージできる生徒までがいる。分かっていること、分からないことの内容も多様である。学力に差がある生徒一人ひとりが、単元を通して新たな「見方・考え方」を身につけるためには、多様な答えが出る課題設定と、一人ひとりの問いに寄り添える学習の形態が必要だと考えた。協働的な学習形態を通して、一人もとこぼさない授業を目指す。4人グループで、分からない時はいつでも聞けるようにしたり、ここまではできていないと次に進めないという場面では、全員が協力して完成できるように促せば、各自がプラス1の力をつけることができると考えた。

4 研究の実際

いくつかのパフォーマンス課題に取り組んでいるが、その中でも、数年にわたり繰り返し改善しながら取り組み、生徒の力がついたと考えられる実践について報告する。

・『紙の建築』 教育出版二年生

・『水の山富士山』 教育出版二年生

1 単元名 坂茂さんを新聞記事で紹介しよう（主な教材：紙の建築 教育出版）

2 単元の目標

- ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。

[知識及び技能] (2) ア

- ・文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができる。

[思考力、判断力、表現力等] C (1) ア

- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。

「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動 坂茂さんを紹介する新聞記事を書く。

（関連：[思考力・判断力・表現力等] C (1) ア）

4 単元について

(1) 単元観

本単元では、上記単元の目標を踏まえ、坂茂さんを紹介する新聞記事を書く言語活動を設定した。人物を紹介する新聞記事を読むと、多くは「取り組んでいること→きっかけ→行ったこと→その役割に対する思い」という順番で構成されている。そのため、新聞記事にリライトする言語活動が、主張と例示との関係を捉える力を身につけることに適していると考えた。新聞記事にするために、1 学年次に既習である、具体例の事実と意見を整理し、主張の理解に繋げたい。関係を捉えることができれば、坂茂さんの行動力の根底には、建築物の倒壊によるけが人や死者は、建築士の責任だという思いや、人の役に立ちたいという使命感があることに気づく。さらに、本単元を通して、働くことの意味を見いだせずにいる生徒や、働くことは生活のためだけだと考えている生徒が、働くことに対する新たな見方をも見いだせるようにしたい。

(2) 児童生徒の実態

（省略）

今回の単元で使用する新聞記事（板書計画参照）を用いて、具体例と主張の結びつきについて調査したところ、「仕事に対する思いが書いてある部分に線を引きなさい」という問いには、ほとんどの生徒が③段落の「人の役に立つ仕事をしたい」を選んでいった。「飛び込んでみると」を選んだ生徒は1名、「志願して」や「発案した」はいなかった。「紙の建築」では、「これ以上は待ってられない」「直接会いに行きました」「改良をかさねていきました」「避難所を回りました」「断られ続けました」「迅速に提供」「建築家としての責任」「何かできることはないか」「人々の役に立てないか」「常々、建築家はどうしたら社会に貢献できるか」「自然災害ではなく、人為的な災害」「生活環境のわるいところを改善」などの言葉の持つ意味に気づくことが主張を捉えることにつながるので、ワークシートやグループでの話し合いを行い、全員が理解できるようにしていきたい。

(3) 指導観

昨年度、2 学年の生徒に今回と同様の「新聞記事にまとめる」授業を実施したところ、作者の主張につながる具体例に込められた思いを捉えることが苦手だと気づいた。教科書

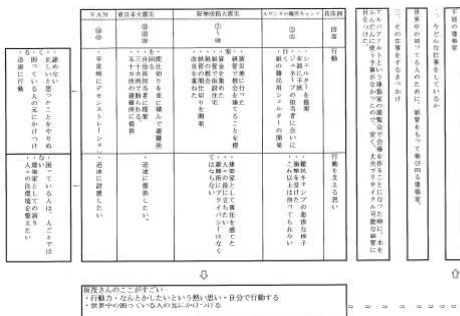
を読むと、具体例には、坂さんの迅速な行動とその行動を支える思いを伝える言葉がちりばめられているが（生徒の実態に記載）、それが、使命感や貢献という言葉に結びついていないからだと考えた。課題解決型の授業では、思考力が不十分な生徒に、考え方の道筋をどのように準備するかが課題である。そこで、まず、行動と、思いに線を引き、ワークシートにまとめて、どんな思いでどのような行動をしたのかを読み取る。そうすれば、試行錯誤しながら、忍耐強く、他者のために自分の建築士としての力を精一杯用いる坂茂さんの姿が見えてきて、「使命感」「貢献」という言葉に結びつくはずである。単元の見通しを持てるように、実際に書かれた人物紹介の新聞記事、指導者が書いた坂茂さんを紹介する記事を例として提示する。

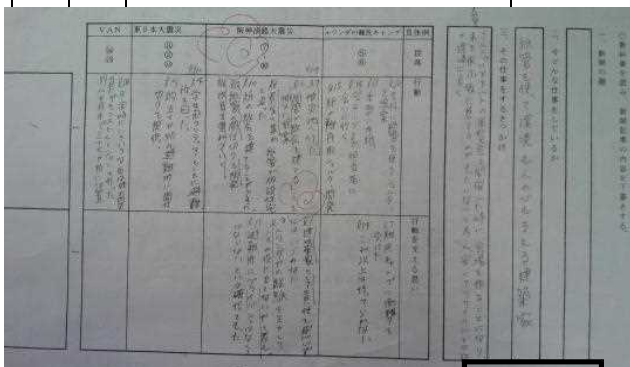
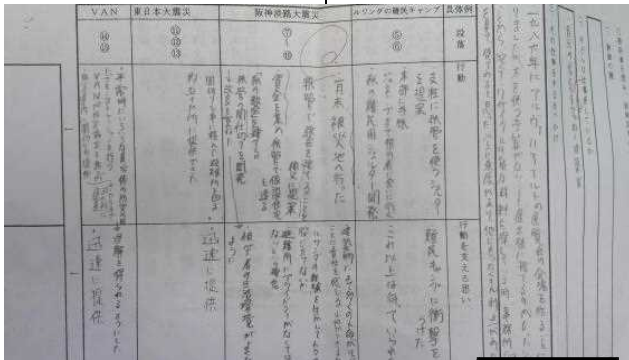
つけたい「見方・考え方」
部分を全体の理解につなげる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2) ア)	①「読むこと」において文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えている。(C (1) ア)	①進んで文章の構成や論理の展開について考え、学習課題にそって説明しようとしている。

6 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	(評価規準・評価方法)
第一次	1	○坂茂さんを紹介する新聞記事を記者になって書くことを知る。 ○実際の新聞記事（資料①）を読み、新聞の構成を知る。	○人物紹介の例（資料②）を提示し、見通しを持たせる。 ○坂茂さんの人柄が伝わるように書く。	資料② 完成例（指導者作成）
	2	○全文を読む。 ○本文の段落構成を確認する。 ○新聞の構成に則って、紹介文を考える。ワークシート（資料③は指導者が作成したもの）の「仕事内容」「きっかけ」を記入する。 ○新聞記事にする。	このワークシートは全員ができるように、 	資料③ 指導者作成
二次	3	○ワークシートの「具体例」に取り組む。 ○教科書の「行動」と「思い」が書かれている部分それぞれに線を引く。	○ワークシートに記入したことが記事の元になるので、全員が記入できるようにグループワークも行う。 ○行動と思いには、別の色を用いる。	【知識・技能①】 ワークシート ・事実と思いを捉えているか確認する。 【主体的に学習に取り組む姿①】新聞記事 ・進んで記事にまとめようとしている姿を確認する。

4	○ワークシートに記入(資料④⑤)する。 ○どんな思いでどんな行動をしているかまとめる。	○行動・・・相手の立場に立って迅速に忍耐強く行動 ○思い・・・建築士としての責務を果たしたい	【思考・判断・表現 ①】新聞記事 ・具体例の行動を支える思いを捉えているか確認する。 ・例示を踏まえて主張を捉えているか確認する。
		資料④	
5	○新聞記事にする。	○ワークシートに書いた言葉を生かしながら、行動を支える思いが伝わるように書く。 ○難しいと感じる生徒は周囲の生徒に聞きながら行う。 ○ワークシートや教科書をよく読みながら行う。	「見方・考え方」を働かせる。
			
6	○4人グループで交換しながら読み、自分の新聞記事と比較して、推敲する。 ○新聞記事の最後のまとめを記入し、題をつける。	○どのようなものが良いのかわかるようにする。 ○自分に不足している部分や、良い表現だなと思った所を付け加えたり、直したりして清書する時に生かせるようにする。	
三次	7 ○グループで互いの作品を読み合う。 ○社会に貢献したいことを考える。		

完成した作品

協働的な学習を意識すると、完成率が良い。

資料⑥

表紙に用いた作品（資料⑥⑦）

学力に差があっても、各自の見方・考え方を生かして完成させた作品

資料⑦

資料⑧

題名は、各自の個性が表現できるものに

- ・紙使いのアベンジャーズ建築士
- ・神出鬼没な建築士
- ・折れない心と強い信念
- ・鋼のメンタルを持つ建築士
- ・紙管を持ってどこまでも
- ・人々を助け、幸せを運ぶヒーロー

資料⑨

- 1 単元名 富士山の水の流れを図を用いて説明しよう（主な教材：水の山富士山 教育出版）
- 2 単元の目標
 - ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使うことができる。〔知識及び技能〕（2）イ
 - ・文章と図表などを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈できる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C（1）ウ
 - ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕
- 3 本単元における言語活動 富士山における地下水の流れ方を図を用いて説明する。
（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕 C（2）ア）

4 単元について

（1）単元観

本単元では、上記単元の目標を踏まえ、富士山の地下水がどのように流れているかを説明する言語活動を設定した。〔思考力、判断力、表現力等〕 C（1）ウには、「文章とそれらの図表などとの関連には断片的な情報が互いに内容を補完し合っている場合、文章が図表の解説になっている場合などがある。内容を解釈するためには、それぞれどの部分とどの部分が関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、その結果どのような効果が生まれているかを考えることが重要である」とある。これまでの国語授業の経験から、生徒は、図表の読み取りが苦手であると感じている。特に、『水の山富士山』には、図が三枚用いられており、この図と文章の相関関係が深い。よって、図を用いて内容を説明する学習をすることが、図表と内容を結びつける力を身につけることに有効であると考えた。

（2）指導観

図1は構造、図2は、1万年前からの噴火で積み重なった溶岩流と湧水、図3は実際の流れである。図2の理解が難しく、「富士山頂上から見た図」、「1万年前からの噴火で積み重なった溶岩流」ということを見落としがちである。また、図2の「溶岩流が、地下水の流れる道となっているのかもしれない」という仮説から、実際の流れへ、そして、溶岩流が流れた跡にできる洞穴の中の水を調べることにより仮説が正しいと証明する構成、さらに水質について、洞穴内の水と富士山頂の水質、湧水の水質がそれぞれ同じだから、富士山に降った雨は湧水となって湧き出ているという証明の仕方を理解する力が必要である。まず、図1～図3までで説明されていることをワークシートに記入し、図を用い指し示しながらグループで説明する練習を行う。説明することを通して、作者の説明の仕方の効果にも気づく事ができるように、振り返りを行う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係の様々な表し方を理解して使うことができる。 （2）イ	①「読むこと」において文章と図表などを結びつけ、その関係を踏まえて内容を解釈できる。（C（1）ウ）	①進んで文章の構成や論理の展開について考え、学習課題にそって説明しようとしている。

6 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	（評価規準・評価方法）
第一次	1	○全文を読み、富士山の水の流れをイメージ図にする。	○授業の最後に説明テストをすることを意識する（完成例資料⑩）。	
	2	○問いを探し、小見出しをつける。		

- 3 ○図が意味していることをワーク
 - 4 シート(資料⑩)に文章で記入し、4
 - 5 人グループで図を示しながら説明
- する練習をする。



このワークシートは全員ができるように、グループで完成させる。

「見方・考え方」を知る。

○富士山の構造→地下水の流れ→実際の水の流れ方→水質

○水質が同じことを理解することが難しいので、図4として生徒が自作の図を書く。

○各グループの様子を見て、理解が不足している部分を補足する。



資料⑩

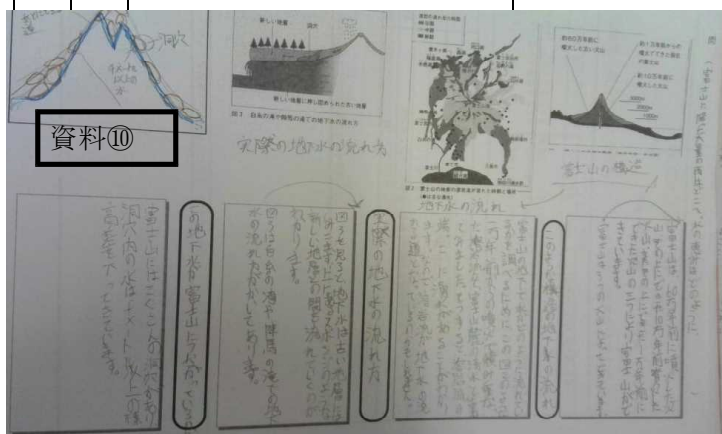


図1 富士山の構造と地下水の流れ
図2 富士山の構造と地下水の流れ
図3 富士山の構造と地下水の流れ
図4 富士山の構造と地下水の流れ

通常の定期テストでは30点の学力の生徒が、説明のテストではB評価(図との対応関係までは説明できたが、水質の説明が明確でなかった。)単元テストでは、80点以上とることができた。協働的な学びの成果だと感じた。

資料⑫



受け身で、気が違ってしまう生徒。この単元では、途中で図1、図2の説明を皆の前で発表した。仲間から大きな拍手をもらっていた。

アンケート回答

質問① よりよく説明できるように努力した「あてはまる」教科書をいっぱい読んだから。

資料⑬



授業中、うとうとしてしまう生徒だが、この単元では、別人であるかのように熱心に取り組み、語彙量も増えた。

アンケート回答

質問① よりよく説明できるように努力した「あてはまる」休みに練習したから。

感想・・・最初は難しかったけど、先生や友達に教えてもらったりしてより良い説明ができた。

二 次	6 7	○図を示しながら富士山に降った雨がどこにいくのか説明する。 ○単元テストを行う。 ○振り返りを行う。	「見方・考え方」を働かせる。 ○何も見ずに、図だけを見て説明できるようにする（説明の内容は、地下水の流れのみ）。	【知識・技能①】 ワークシート ・図の説明が正しく記入できているか確認する。
振り返りの内容 ○筆者はどのような説明の仕方をしているか、書きましょう ・1つ1つの図について、最後の結論につながるように説明されていて、「つまり」という言葉を使って明確な答えを話している。 ・まず富士山の構造を説明して、水の流れを説明して水質などを説明することによって「さっきああ説明したからここは・・・」というように理解しやすくされている。 ・はじめに問い、次にその説明、最後にまとめという流れで読みやすくしている。 ・つまり、すなわち、このためなどという接続語で分かりやすくしている。 ・図や写真を使って文章と照らし合わせながら説明していて、富士山の水の恵みを徐々に説明している。 ・予想と実際に行って調べた結果を述べている ・具体的な数字やデータを用いて説得力のある説明をしている ○なぜ水の山富士山という題名なのか考えよう。 ・富士山自体が巨大な水脈、富士山に降った雨 20 年以上かけて湧き出て栽培、養殖、飲料水など人々の生活を支えている。 ・富士山はその山自体が時期の異なる二つの地層に挟まれた巨大な水脈であり、その水脈によって人々に恵みがもたらされているから。 ・富士山は二つの大きな水脈であったり、麓に住む人々はその富士山から流れる地下水によって生活できているから。				【主体的に学習に取り組む姿①】説明練習 ・図を示しながら説明する練習をしているか確認する。 【思考・判断・表現①】説明 ・地下水の流れを図を示しながら説明できているか確認する。

生徒発表を録音して文字起こししたもの

（生徒は、図を示しながら何も見ずに説明する。グループで練習した後、指導者がテストを実施。）

これから富士山の地下水の流れを説明します。

まず、富士山の構造について説明します。図1を見てください。図1は、富士山内部の断面図です。この図を見てわかるように富士山は3つの火山によって構成されています。一番古い約六十万年前に噴火した火山が一番下にあって、その上に約十万年前に噴火した火山、そして私たちが見ているのは、約一万年前から噴火でできた火山です。この約一万年前に噴火した火山の表面にはガスが抜けてできたスポンジ状の細かな穴があり、ここに水が通ります。だから、富士山はこの約一万年前に噴火した火山でおおわれているため、河川がないです。



次に富士山の地下水の流れについて説明します。図2を見てください。図2は、富士山の地表の溶岩流が流れた時期と場所を示した図です。この黒い丸は湧水を表しています。この黒い丸を見てみると、溶岩流の末端部の所に多くの湧水があることがわかります。このことから分かるのは、富士山の溶岩流が水の流れる道となっているかもしれないということです。



次に実際の富士山の水の流れについて説明します。図3を見てください。図3は、富士山の近くにある白糸の滝や陣馬の滝での地下水の流れ方を表した図です。先ほどの図1で説明したように、新しい地層には細かな穴があるので、ここに水が通ります。そして新しい地層に固められた古い地層には水は通りません。なので、新しい地層と古い地層の間で水が流れていきます。

水質が同じであるかですが、富士山には溶岩流によってできた洞穴が数多く存在しています。洞穴内の水を調べてみると約千メートル以上の標高差を下ってきていることが分かります。そして図2にもかいてあるように富士山の周りには富士五湖や忍野八海、主な湧水がたくさんあります。ここの水を調べて見ると洞穴の水と同じように千メートル以上の標高差をくだってきていることが分かりました。

つまり、富士山の山頂や山腹にもたらされた降水は新しい地層と古い地層の間を溶岩流に沿って流れて、四方八方に広がり、水の恵みをもたらしてくれていることが分かります。

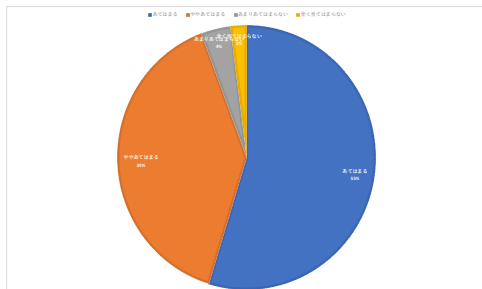


5 アンケート結果

『水の山富士山』の学習後に、異なる職員が担当する2クラスにアンケートをとった。

①よりよく説明できるように努力した

あてはまる 55% ややあてはまる 39% あまりあてはまらない 4% 全くあてはまらない 2%



あてはまる/ややあてはまる

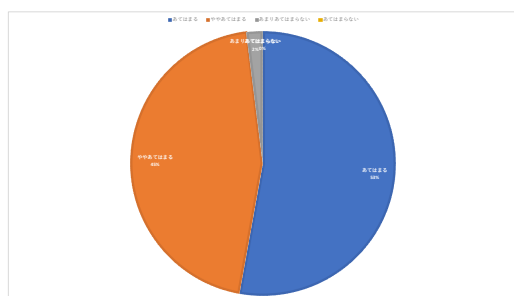
- ・どこが必ず必要かマークしてまとめた・文章を何回も読み直し、改善した
- ・説明する内容の順序や言葉を一生懸命考えることができた
- ・図や教科書を繰り返し見て理解を深めようとした・休み時間を削って練習した

あまりあてはまらない/全くあてはまらない

- ・先生にサポートしてもらったから

②グループで学び合うことは学びの役に立つ

あてはまる 53% ややあてはまる 45% あまりあてはまらない 2% 全くあてはまらない 0%



あてはまる/ややあてはまる

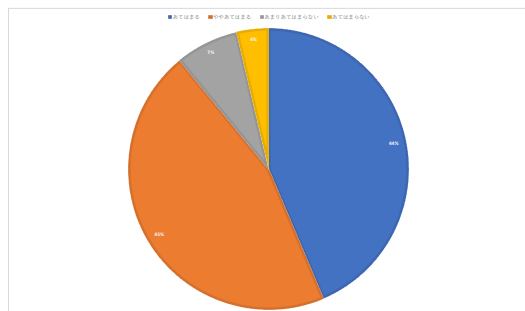
- ・4人で知識を共有できた・話し合って答えを導き出せた
- ・4人でたくさん発表練習して、教え合った
- ・自分が言い足りていないところのアドバイスがもらえた
- ・色々な人の意見が聞けるし、色々なパターンをしれるから
- ・他の人に教えることで自分の気づきにつながった
- ・この単元が始まる前よりも力がついたと思ったから
- ・何回も発表しているうちに、ここが大事なのだと分かるようになった

あまりあてはまらない/全くあてはまらない

- ・よく分からなかった・休んでいたから

③今回の学習を通して自分の考えが広がったり深くなったりした

あてはまる 44% ややあてはまる 45% あまりあてはまらない 7% 全くあてはまらない 4%



あてはまる/ややあてはまる

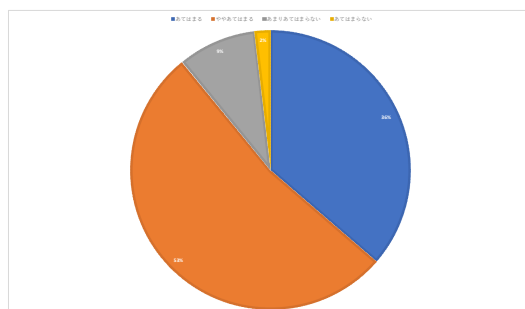
- ・自分の意見が、間違っているというわけではなく、仲間の意見を取り入れてより良い考え方ができると改めて思ったから・読み取り方が広がった
- ・いつも身近な山や町などについての考えが深まった
- ・考え方のバリエーションが増えた・図の見方や説明の仕方が分かった
- ・できない部分は、考え方を変えて学習できた
- ・説明の中で一番大切な部分の見方が分かった
- ・説明が上手な人の共通点を見つけられた

あまりあてはまらない/全くあてはまらない

- ・分かっていない・特に気にならなかった

④学んだことや身に付いた技術が今後の生活に役に立つと思う

あてはまる 36% ややあてはまる 53% あまりあてはまらない 9% 全くあてはまらない 2%



あてはまる/ややあてはまる

- ・相手が分かるまで（納得する）説明をするのは難しいが、今回論理的に説明することを学び、説明文の構造を学んだことで順序よく説明する方法が少しは身に付いたと思う
- ・大人になって働く時にプレゼンに生かせる
- ・語彙力はついた・図を用いた説明は社会でも使う

あまりあてはまらない/全くあてはまらない

- ・富士山に行かない・身に付かなかった

⑤国語の授業の感想

- ・問いに対する答えを探し、その答えを出すために行った調査は、何をどう示しているのかを完璧というわけではないけれど、ある程度理解できた。普段説明文は読む機会が少ないので良い経験になった。
- ・班活動などで違う視点の人や自分より良い文をかけている人にアドバイスをもらえたのも良かった。
- ・いつもは全然わからず進まないから楽しくないが、今回はみんなの力で理解することができ、楽しく授業を進められた。

6 仮説に対する成果と課題

仮説 1

○成果

- ・教科書やワークシートを読み返すなどの主体的な行動が見られる。
- ・夢中で取り組む。○授業に対する意識が変わる。○自信がつく。
- ・内容の理解がよくできて、単元テストの結果が良い。
「水の山富士山」単元テスト 受験者 29 名 80 点以上 21 名（うち 100 点 10 人）
- ・説明テストは、B 以上の評価が 80%
- ・学力に差があっても、それぞれの力を伸ばすことができるので、学びが停滞しない。
（普段、うとうとしてしまうような生徒が、頑張って説明していた。9 頁参照）
- ・指導者が、生徒に身に付いた力を明確に意識できる。
（図 2 が説明している内容の読み取りが不十分・水質が同じであることの証明ができていない）
- ・指導者が、この単元ではどのような「見方・考え方」を働かせれば良いかをよく考え、しっかりおさえることが、良い結果につながった。

○課題

生徒自身が、単元で身につけた力について、十分に言語化できていない（11 頁アンケート④）。現在実施している振り返りの方法を工夫して改善すれば、社会とのつながりになる学びになると思う。

仮説 2

○成果

- ・分からない時は聞けるという安心感がある。・授業に参加している生徒は作品を完成させられる。
- ・「ここまでは全員でできるようにしよう」というような投げかけにより、思考に入るための準備段階が整う。
- ・教えることによる気づき、教えてもらうことによる気づきがある。
- ・学級活動でも、分からない人は教えてもらう、分かっている人は教えるということが自然にできるようになり、自分の長所を生かせる場面が増えた。

○課題

- ・グループごとで話し合っている内容をフィードバックする（このグループではこんな時にこんな意見が出ていた等）ことができれば、より深い「見方・考え方」につながると思う。
- ・更に主体的に、タブレットや本でも調べてみようというような意欲がグループ内で出てくると良い。

7 研究のまとめ 見方・考え方を育てる手立てのあり方 ～パフォーマンス課題を通して～

『紙の建築』『水の山富士山』どちらの学習でも、生徒が主体的に取り組む姿が見られた。学力のある生徒はもちろんのことであるが、普段は受け身の生徒が、教科書を読んだり、友達の発表から学ぼうとしたり、休み時間を用いて練習したりしていたのが印象的であった。この授業を実施するのは、4 年目で、改善しながら取り組んできた。特に、学力のない生徒は、課題解決する際にどのような視点で思考していけば良いかが分からず次に進めない、理解した内容をどのように用いれば良いのかが分からない場合が多く見られた。指導者が、まず、単元において身につけたい「見方・考え方」を学習指導要領に基づいて理解し、「見方・考え方」を教えるだけではなく、「見方・考え方」を働かせることができるような課題を設定することが、生徒の「見方・考え方」を育てるのに有効であった。今後は、生徒自身が、どのような「見方・考え方」が身に付いたかを認識できるような「振り返り」のあり方を研究していきたい。